

ワークシーンから再定義する ワークプレイス。

/ テレワークがオフィスのあり方に与える影響

/ With/Afterコロナ時代のリアルオフィスの役割

/ Afterコロナ時代を見据えたリアルオフィス導入ステップ

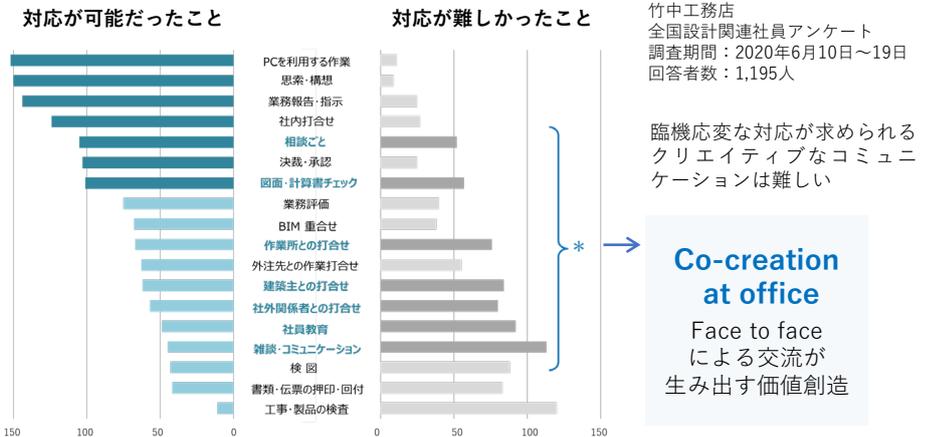
テレワークがオフィスのあり方に与える影響

新型コロナウイルスの感染爆発に伴い、当社でも緊急避難的な在宅勤務を実施した。それを契機に改めてテレワークがオフィスのあり方に与える影響について考えた。

全国の設計関連社員を対象としたアンケートでは、約6割の社員が普段通りかそれ以上の成果が上げられたと回答した。一方で、臨機応変な対応や発散的な議論が必要になるコミュニケーションは対応が難しかったとの評価が多かった。

今後、場所を選ばない日常業務や個人作業は、自宅や3rdプレイスでのテレワークにシフトしていくと考えられる。その分、センターオフィスは、Face to Faceのコミュニケーションや、実物を介した共創、企業文化の伝承・深耕など、リアルな場でなければ得られない価値提供=大きな求心力が求められるようになる。

■テレワークでも対応できる業務/対応が難しい業務



■今後の働き方



+



これまで「テレワーク」は「オフィスワーク」を補完するもの

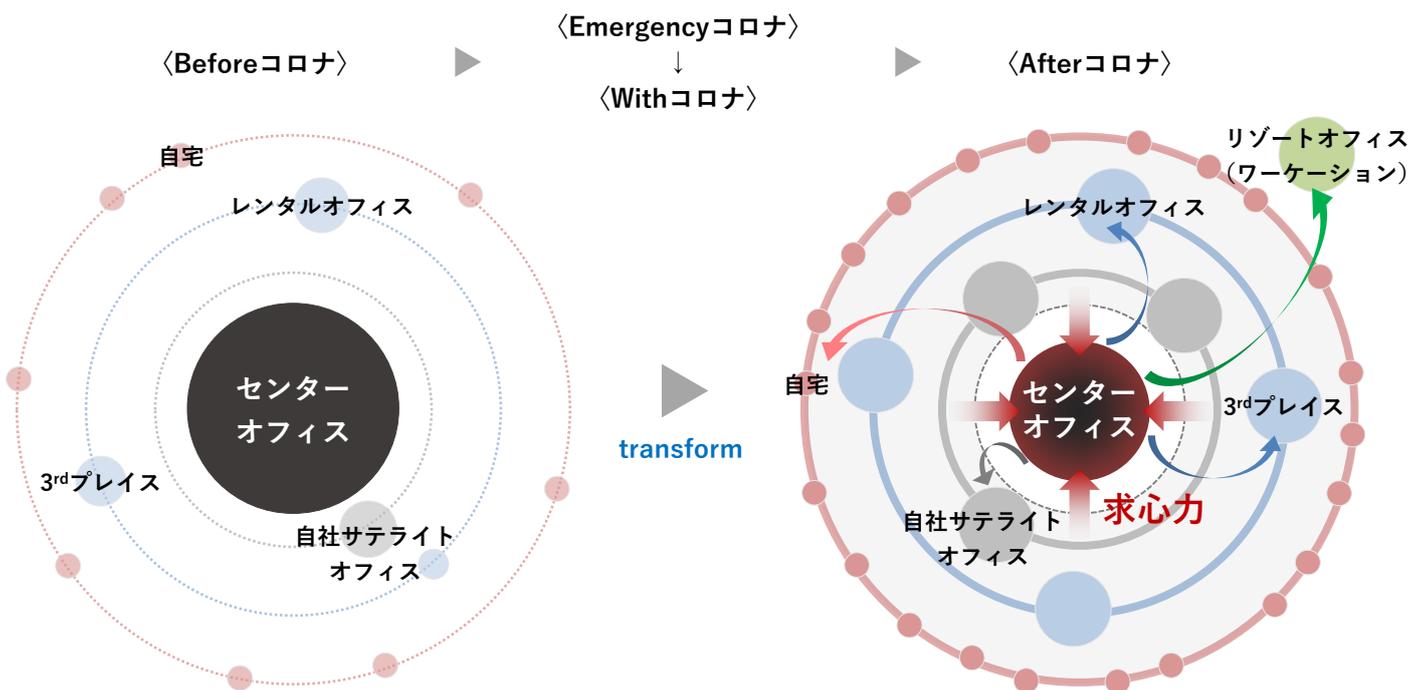


×



これから業務内容に合わせて「オフィスワーク」と「テレワーク」を使い分け、相乗効果によって価値創造の最大化を実現するもの

■テレワークの進展によるオフィスのあり方の変化



規模の大きいセンターオフィスを中心にワークプレイスを構築

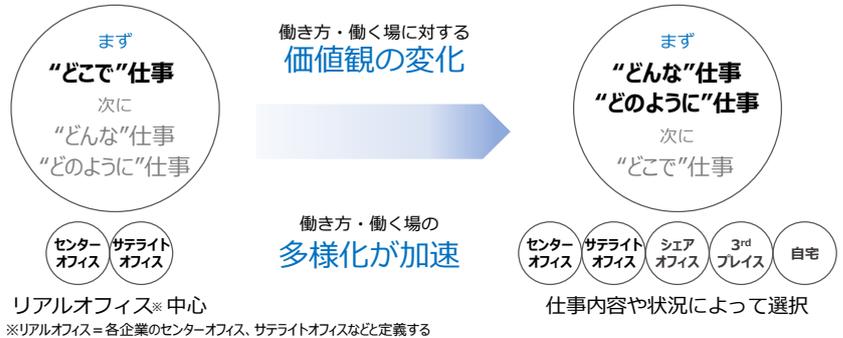
日常的業務は、自宅や3rdプレイスでのテレワークにシフトし、センターオフィスは縮減する中、大きな求心力が必要になる。

With/Afterコロナ時代のリアルオフィスの役割

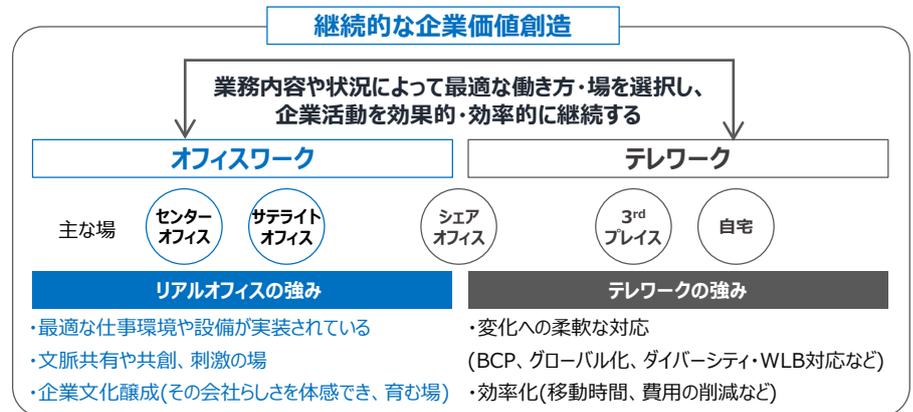
コロナ禍により、ワーカーの「働き方」「働く場」に対する価値観は大きく変化し、働く環境はこれまで以上に多様化が進んでいる。企業の競争力を高めるためには、業務内容や状況によって最適な働き方・場を選択し、企業活動を効果的・効率的に継続することが重要である。そのためにはリアルオフィスとテレワークそれぞれの長を把握することがポイントとなる。

同時に、改めてリアルオフィスに求める役割の再構築が必要とされている。Afterコロナ時代におけるリアルオフィスには、そこでしか実現することができない価値を継続的に創出するための場であること、様々な危機・脅威に対応できる回復力・しなやかさ（レジリエンス）を備えていることが求められる。これからのリアルオフィスに求められる具体的な9つの役割を紹介する。

■「働き方」「働く場」に対する価値観の変化



■リアルオフィスとテレワークの特長



■リアルオフィスに求められる9つの役割



Afterコロナ時代を見据えたリアルオフィス導入ステップ

リアルオフィスのあり方を検討するには、CRE戦略だけでなく、企業風土・業種・職能により異なる「オフィスワーク」×「テレワーク」のベストミックスを探ることが重要である。当社は、社員参加型ワークスタイル変革により“お客様と寄り添い、共に探求するプロセス”において、ノウハウと実績がある。

デザインに入る前段階でお客様課題を明確にして、設計要件を確定する。テレワークが浸透し、①オフィス機能の見直し、②出勤率、③ソーシャルディスタンスなど、リアルオフィスに求める価値観に変化が生まれた。そこで我々はリアルオフィスを「オフィス機能」×「人数」×「余裕度」で再定義することを提案する。“執務行動”から「オフィスに求める必要機能」を、“働く場所”から「出勤率」を、“執務環境”から「ソーシャルディスタンス」を導出する。

■「オフィスワーク」と「テレワーク」のベストミックスは？



企業風土・業種・職能を考慮して、ベストミックスを探ることが重要である。



■リアルオフィス再定義の5ステップ



リアルオフィスを「オフィス機能」×「人数」×「余裕度」で再定義する。

コロナ禍により変化した価値観

①必要機能の見直し、②出勤率、③ソーシャルディスタンスをPHASE2,3で探る。

■リアルオフィスを再定義する3つの視点

オフィス機能

(必要機能の見直し)

人数

(席数・室数・出勤率)

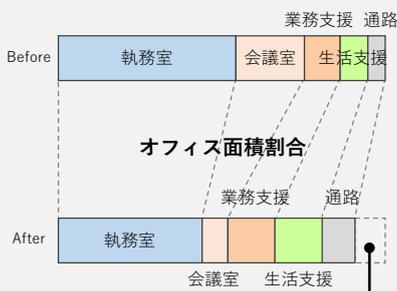
余裕度

(原単位・ソーシャルディスタンス)

執務行動から考える
(どんな仕事?)



オフィスアクティビティカード®：
執務行動が記載された参加者の対話を
活性化させるツール



オフィス機能見直しによって
捻出されたオフィス面積

働く場所から考える
(どこで仕事?)



出勤率100%の席数



出勤率減少によって
削減された執務室面積

執務環境から考える
(どんな環境?)



1人当たり 6~8㎡程度



ソーシャルディスタンス確保によって、
増加した執務室面積